

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 5

2008年8月19日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「城北図書館ビジネス支援相談会」のご案内
2. 「静岡大学生物産業創出推進拠点第18回研究会」を開催します
3. イノベーション・ジャパン2008で発表・出展いたします

1. 「城北図書館ビジネス支援相談会」のご案内

日時 平成20年8月20日（水）13：00～17：00
場所 浜松市立城北図書館 グループ研究室
相談員 岩井敏雄氏（はままつ産業創造センター経営コーディネーター）
内容 起業・創業、経営相談等
対象 起業や新規事業をお考えの方、中小企業経営者の方など
定員 4組（①1時～ ②2時～ ③3時～ ④4時～）
先着順でご希望の時間帯をご用意します。
詳細 <http://www.net-hamamatsu.jp/modules/news/article.php?storyid=74>
問合先 浜松市立城北図書館 担当 小野、山田
TEL：053-474-1725

2. 「静岡大学生物産業創出推進拠点第18回研究会」
～ものづくりと環境浄化に貢献する微生物～ を開催します

日時 平成20年9月2日（火）13：30～16：45
場所 静岡市産学交流センターB-nest6階プレゼンテーションルーム
内容 ○講演
1. 「微生物化学研究センターにおける
微生物生産物を基盤とした抗がん剤の探索」
(財)微生物化学研究会 微生物化学研究センター
沼津創薬医科学研究所 プロジェクト研究推進ユニット長
百瀬功氏
2. 「白色腐朽担子菌の異物代謝能を探る-環境浄化への一提案-」
静岡大学農学部 准教授 平井浩文
その他、会員企業のプレゼンテーションもあります。
○懇親会 17：00～
参加費 研究会：会員及び学生は無料、非会員は1,000円
懇親会：会員企業は1名2000円、非会員は1名4000円
詳細 <http://bio.cjr.shizuoka.ac.jp/>
問合先 静岡大学生物産業創出推進拠点事務局 平岡
TEL 054-238-4631

3. イノベーション・ジャパン2008で発表・出展いたします

日時 平成20年9月16日～18日 10：00～18：00

場所 東京国際フォーラム（東京・有楽町）
主催 （独）科学技術振興機構、
（独）新エネルギー産業技術総合開発機構

静岡大学の発表・展示内容

○発表

9/16（火）13：30～

「多孔質化イヌリンによる油脂の粉末化技術」新井映子

9/17（水）11：30～

「高温水によるバイオマス廃棄物の高効率エネルギー資源化技術」

佐古猛

9/18（木）14：00～

「航空画像を用いた広域における道路標示抽出」佐治斉

9/18（木）15：00～

「GPUを用いたビデオ映像のリアルタイム安定化」三浦憲二郎

9/18（木）15：00～

「圧電結晶を用いた新しいマイクロ実験室の開発」近藤淳

○展示 9/16～18

「現地調査に基づく中国四川地震の断層メカニズム」林愛明

「癌の早期発見・早期治療のための医用材料のイノベーション」山

下光司

「GPUを用いたビデオ映像のリアルタイム安定化」三浦憲二郎

「航空画像を用いた広域における道路標示抽出」佐治斉

「高温水によるバイオマス廃棄物の高効率エネルギー資源化技術」

佐古猛

「圧電結晶を用いた新しいマイクロ実験室の開発」近藤淳

入場料 無料

詳細 <http://expo.nikkeibp.co.jp/innovation/index.html>

問合せ先 静岡大学イノベーション共同研究センター 担当 大内、尾形
TEL 053-478-1704

《 みんなのコラム 》

11年程前に全国の国立大学に設置されたベンチャービジネスラボラトリーのシンポジウムが、8月1日に開催され、静岡大学も出展参加しました。その講演において、「現在の共同研究件数や大学知財創出、ライセンス件数・金額といった産学官連携活動の入り口ではなく、今後は、産学官連携活動実施による経済効果が示される必要がある」との話がありました。

文部科学省の講演では、大学発ベンチャー企業創出による経済効果（企業上高、新規雇用数など）が産学官連携活動の評価として報告されました。

景気後退の兆しが強く伺えるなか、産学官連携活動も社会・地域貢献としての実績（経済効果）が求められ、産学官連携活動のシステム、機能性などを見直す曲がり角の時期にきていると言えます。（記：林正浩）

《 編集後記 》

ニュースでご覧になった方も多いかもかもしれませんが、今年の5月12日に発生した四川省大地震で、いち早く現地調査に向かったのが静岡大学の林愛明（LIN Aiming）教授です。

地震地質学が専門で活断層に詳しい林先生が、発生2日後に現地入りして調査を始めたのは、今回の地震を引き起こした断層を探すため。

断層を見ることで、その地震の特徴がわかるそうです。

産学連携の現場でもそうですが、やはりフットワークの良さで成否が決まることは多いのではないのでしょうか。

林愛明先生も出展する“イノベーション・ジャパン2008”。

ぜひ静大ブースにお立ち寄りください。

